

若者が新しい取り組みを次々に企画・実施！商店街、個店に刺激を与え活性化を促す

## 生駒商工会議所

機関名	生駒商工会議所		
所在地	生駒市元町1-6-12 生駒セイセイビル3階		
電話番号	0743-74-3515		
地域概要	(1)管内人口 115千人	(2)管内商店街数 8商店街	
事業の対象となる商店街の概要	(1)商店街数 6商店街	(2)会員数 100商店	
	(3)空店舗率 7%	(4)大型店空き店舗数 0店	
商店街の種類	1.超広域型商店街 2.広域型商店街 3.地域型商店街 4.近隣型商店街		

### 【事業名と実施年度】

平成15年度	活性化対策事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミニコミ誌、商店街マップ作成</li> <li>・駅前大学事業</li> <li>・クリスマス等イベント事業</li> <li>・景観整備事業 等</li> </ul>
	総事業費	9,800千円

### 【事業実施内容】

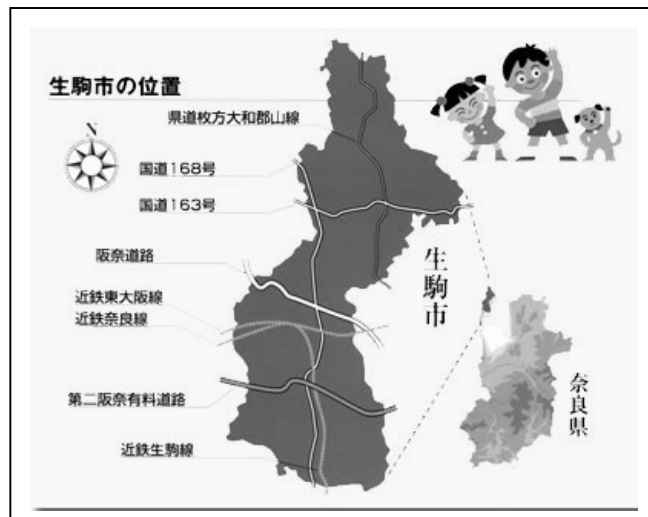
#### 1. 背景

奈良県生駒市は奈良県の北西端に位置し、人口約11万5千人、周囲約60km、面積53.18km<sup>2</sup>の都市である。大阪のベッドタウンとしての性格が強く、買い物も大阪で、という消費者が多い。

生駒駅前商店街は、こうした大都市への消費流出問題を抱えながらも人口増加等に支えられ、売上も安定的に推移してきた。生駒駅は3つの路線のターミナルであり、平成17年度には新たに京阪奈新線の開通が予定されている。交通利便性が更に向上することで多くの来街者が見込まれる。

しかし、生駒駅周辺は百貨店等の大型店が立地し、近年再開発が進行しているものの、周辺の商店街への回遊性は決して高いとはいえない。また、商店街をはじめとして街の特徴についても十分に発揮されているという状況ではない。

このような環境のもと、平成15年度の活性化対策事業として奈良県大学連合の協力を得て、若者の発想を取り入れ、商店街を地域のコミュニティの場として積極的に活用す



奈良県生駒市の位置図（生駒市HPより）

るとともに、商店街と大学の協働による賑わいの創出を図ることとなった。

## 2. 事業内容

### (1) 事業実施体制

生駒駅周辺の生駒駅南通り商店街協同組合、商栄会、ぴっくり通り商店街の3商店街及び生駒ショッピングストアを対象として、商店街と若者との協働による賑わいの創出を目的に、「集客を目的とした各種イベント」「商店街からの情報提供」「景観整備」「商店街に関する調査研究」のテーマについて活性化対策事業を実施した。

事業の牽引役は、奈良県内の国公立10大学で構成する“奈良県大学連合”が担い、主導者を務めた。実際の事業展開は、大学連合のうち5大学がそれぞれ大学単位で担当分けを行ない、個別に地元商店街や地域の関係者の協力体制のもと活動を実施した。

### (2) 集客を目的とした各種イベント事業

#### ①「ま〜こい IKOMA」を活用した生駒駅前大学事業（全26回）

ま〜こい IKOMA（平成13年度空き店舗対策事業により設置されたコミュニティ施設）を活用して、自然、経済、生活環境などの楽しみやすいテーマに添った公開講座を開催した。講座の講師は、4大学の教授らと商店街の店主が努めた。

- ・帝塚山大学 1回
- ・奈良大学 4回
- ・奈良産業大学 8回
- ・奈良女子大学 10回
- ・生駒駅前商店街 3回

#### ②商工まつり、商店街フェスタ参加事業

第16回生駒商工まつり・商店街フェスタに、学生による吹奏楽演奏やストリートライブ、車椅子体験コーナーなどが4大学それぞれの企画により開催された。

#### ③クリスマスイベント

聖歌隊による合唱や、ダンス・パフォーマンスが催された。

### (3) 商店街からの情報提供事業

奈良女子大学が生駒駅前商店街の情報を発信しPRすることで、集客を図ることを目的に、次の2つを発行した。企画から取材、編集、発行までを一貫して大学生が行った。

#### ①ミニコミ誌「ひょうたんからいこま！」発行（全3回）

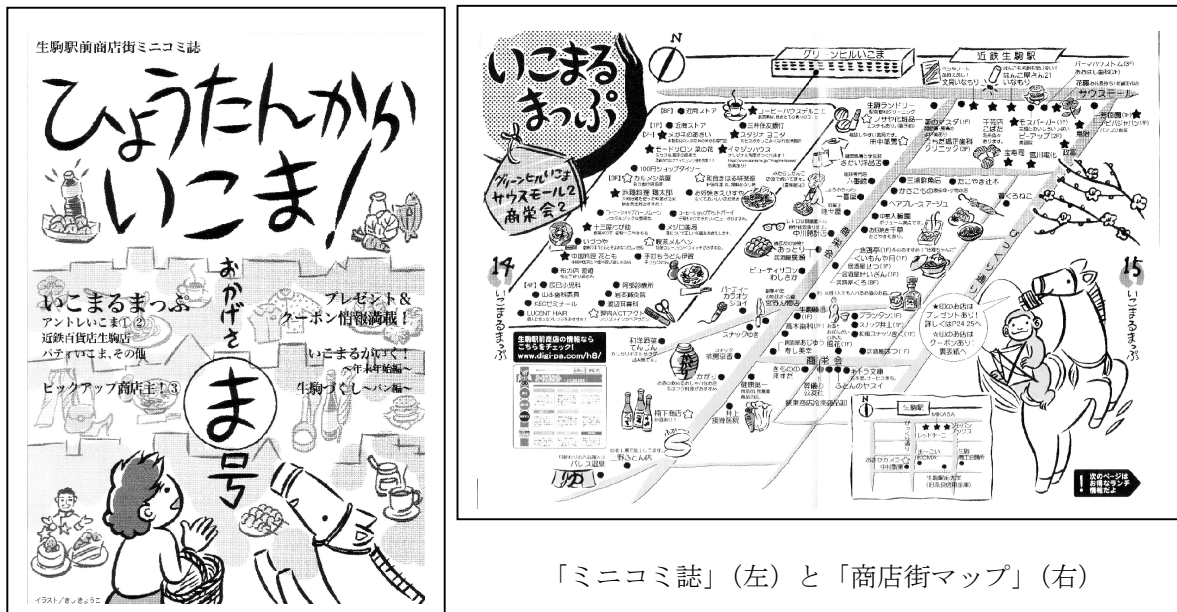
生駒駅前商店街の情報を中心とした掲載内容。

#### ②駅前商店街マップ発行

ショッピングガイドとなるマップ。



駅前大学「お花屋さんから教わるアレンジメント」



「ミニコミ誌」(左)と「商店街マップ」(右)

(4) 景観整備

駅前商店街の景観を整備しイメージアップを図る目的で、奈良女子大学と奈良大学が共同で実施した。

- ①商店街一斉清掃
- ②シャッターアート

店舗のシャッターに華やかなペインティングを施し、明るい商店街をアピールした。

(5) 商店街に関する各種調査・研究事業

- ①コミュニティバス運行案についての調査
- ②商店街バリアフリー度調査 ⇒ 商店街バリアフリー度地図の作成
- ③通行量調査

【 効 果 】

1. 商店街の認知度

駅前大学やミニコミ誌により、生駒市内外の広範囲にわたって商店街及び個店の認知度が高まった。

特に、ミニコミ誌「ひょうたんからいこま！」は、初めて生駒市中心市街地を訪れる人や、いつもまちに来ているが駅前商店街をよく知らない人には特に好評であった。また、優れた感性からつくられた内容と、まちなかにスポットをあてた視点が斬新なことから、商店街の関係者からも高い評価を受けていた。

2. 来街者の行動

イベントには多くの集客があり、ストリートライブや生駒市ではあまり例を見ない、ダンス・パフォーマンスに、道行く人が次々と足を止めていた。また、空き店舗を活用

した休憩施設「ま〜こい IKOMA」には、学生からお年寄りまで幅広い層の来街者が立ち寄り、滞留時間も長くなった。何より、学生が街なかを闊歩したということが、相乗的に人を呼ぶという意味での活性化を促したといえる。

### 3. 近隣個店への波及

これまでの活性化事業は、一部の役員や担当が努力しても一般の組合員まで十分浸透していたとは言いがたいケースが少なからずあった。しかし今回は、商店主がまちづくりを真剣に考えるようになり、その意義は大きい。若者が新しい取り組みを次々と企画し実施したことが、商店主に大きな刺激を与えた。

## 【 課 題 ・ 反 省 点 】

### 1. 人的体制

事業実施に当たって、大学により負担度合の差が生じたことや、駅周辺商店街のなかでも事業内容により協力度合の差が目立った。

### 2. 事業の合意形成

補助対象事業か対象外かといった補助金ありきで進行してしまい、奈良県大学連合の参加大学と商店街の間で、各事業の方向性の違いが多くみられた。

## 【 事 業 の 実 施 ポ イ ン ト 】

1. 商店街自身が目標を明確にすることが重要である。
2. 事業実施に当たっては、できるだけ幅広く団体への呼びかけ、参加を促す必要がある。
3. 商店街の各店が、事業を理解し、納得する必要がある。

## 【 関 連 U R L 】

生駒商工会議所      <http://www1.kcn.ne.jp/~ikomacci/>